

◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症の報告が1例(男性, 60歳代)あり, 病型は肺炎型で, 推定感染経路は不明です。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例(男性, 40歳代)あり, 病型は腸管アメーバ症で, 推定感染経路は性的接触です。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は, 9.00(360例)で, 2週連続で増加し, 過去5年平均値を上回っています。京都市衛生環境研究所において, 第3週に受け付けた, 病原体定点からの感染性胃腸炎の検体から2例, 集団感染事例の検体から6例(3事例)のノロウイルス(すべてG II型)を検出しています。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は, 0.40(16例)で, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。本市では, 4～5年ごとの流行周期が見られ, 前回の流行(平成18年)から4年以上が経過しています。今後の動向に注意してください。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は, 15.96(1,069例)です。注意報レベルの10.0を超えたことから, 1月26日にインフルエンザ流行発生注意報が発令されています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	15.96	1,069
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.00	360
	② 水痘	1.28	51
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.68	27
	④ 伝染性紅斑	0.40	16
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.35	14
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

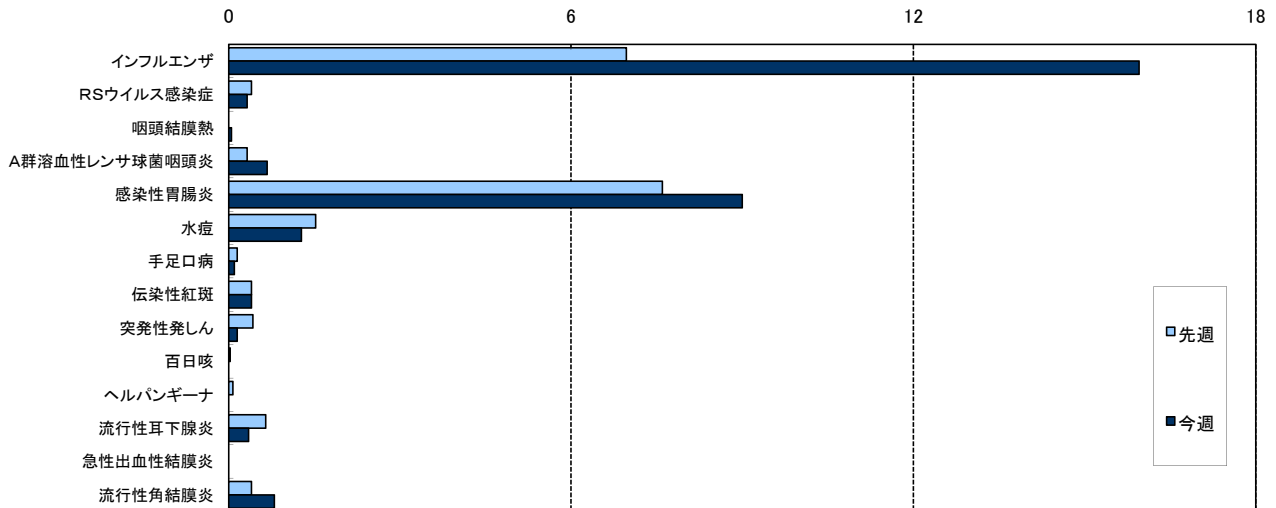
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成23年1月27日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

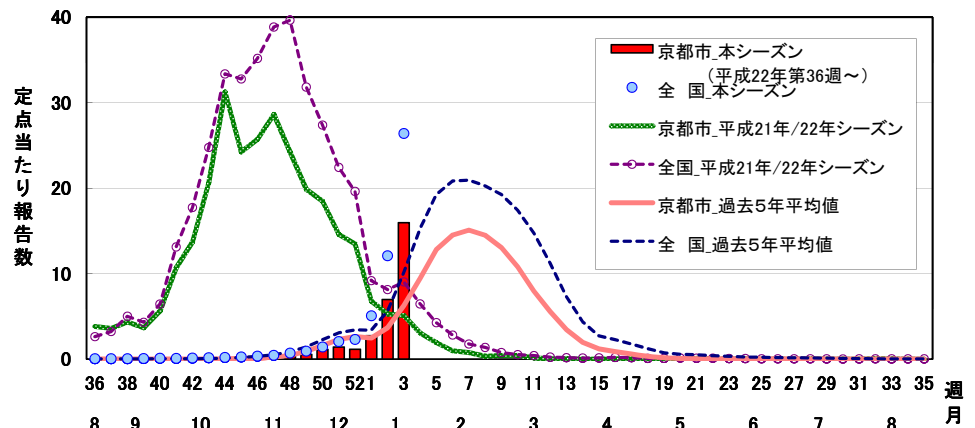
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第3週)と先週(第2週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

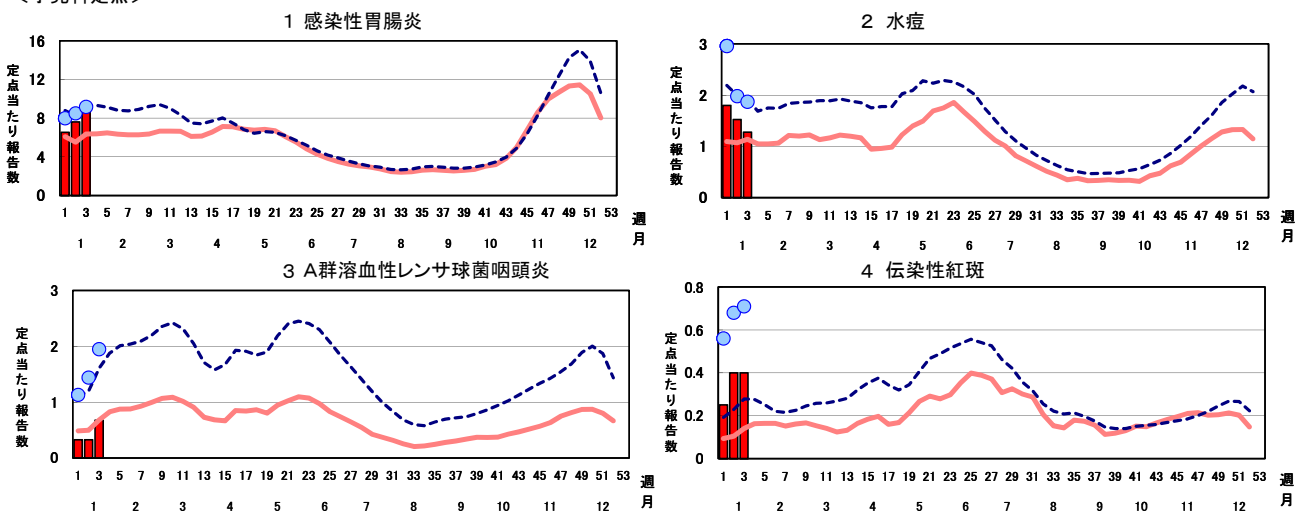
週	報告数(例)
第51週	94
第52週	77
第1週	183
第2週	467
第3週	1,069
累積報告数 (第36週以降)	2,097



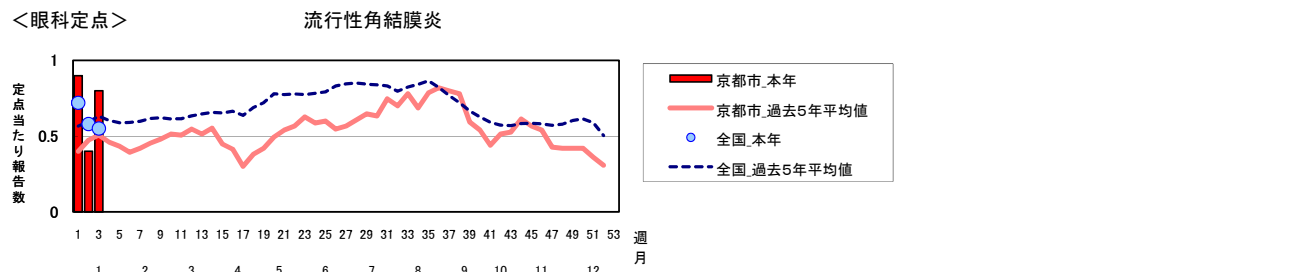
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第3週(1月17日～1月23日)トピックス: <インフルエンザ>

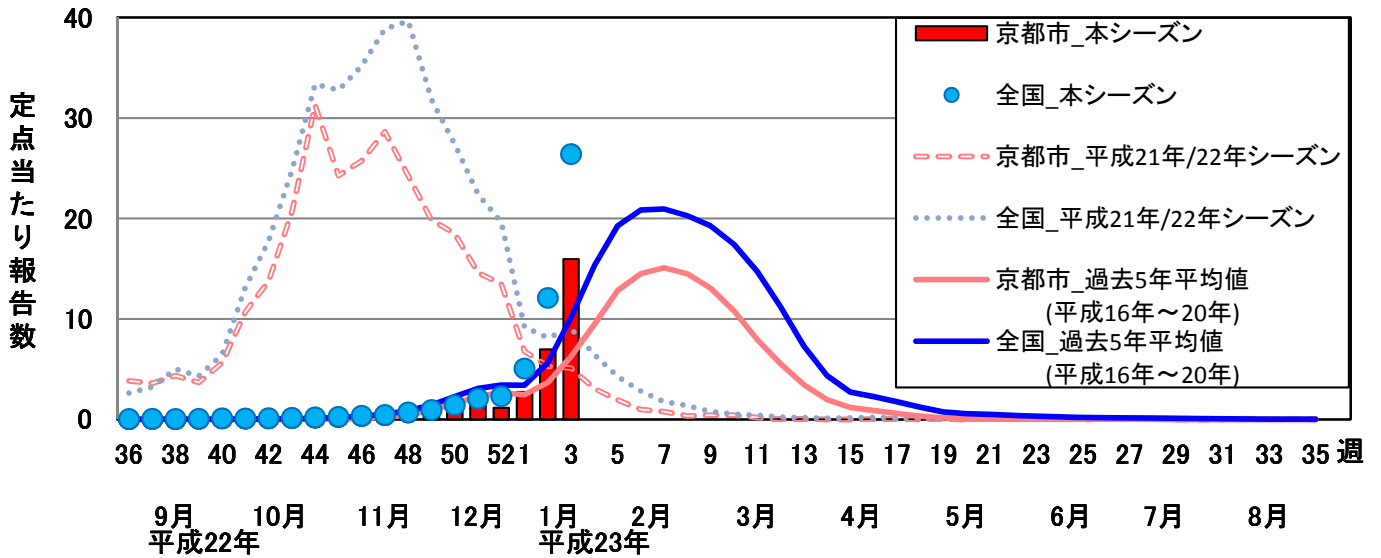
インフルエンザの定点当たり報告数は、15.96(1,069例)です。注意報レベルの10.0を超えたことから、1月26日にインフルエンザ流行発生注意報が発令されています。

第2週(1月10日～1月16日)から急激に患者が増加しており、京都市の過去10年のデータでは、注意報レベルを超えた後、1～3週後に流行ピーク(定点当たり報告数8.24～39.15)を迎えていますので、ご注意ください。

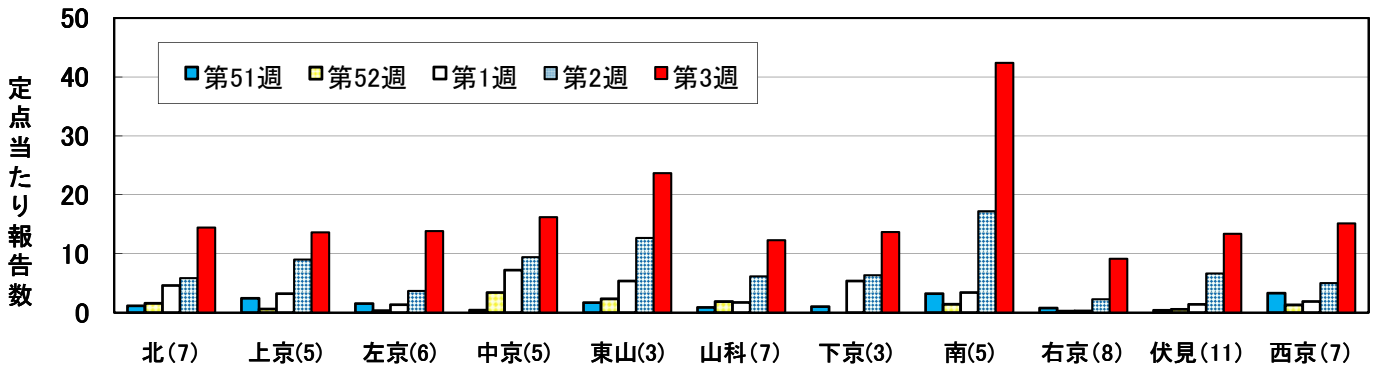
行政区別をみると、すべての行政区で報告数が増加し、先週の約1.5倍(上京区)～4倍(右京区)となっています。年齢階級別では、冬休み期間(第52週, 第1週)の終了後、14歳以下の報告数が多くなってきており、今週は、約半数を14歳以下が占めています。

京都市衛生環境研究所において、本シーズンに分離検出したインフルエンザウイルスは、散发事例からAH1pdm 12例, AH3型 4例 B型 2例, 集団事例からAH3型 4例(3事例), B型 6例(3事例)となっています(1月26日現在)。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は行政区別のインフルエンザ定点医療機関数。各行政区に含まれる医療機関の規模等により、定点当たり報告数が影響を受ける場合があります。

年齢階級別割合の推移

